

2025年4月の世界の外国為替市場と国際通貨 —ドルと人民元の地位を中心に—

田中綾一（駒澤大学経済学部）

要旨

2025年は3年に1度実施されるBISの外為市場調査（Triennial Central Bank Survey: OTC foreign exchange turnover）の実施年であった。2025年9月30日付でBISが公表した調査結果の「速報版」と、各国の中央銀行が個別に公表している自国市場の調査結果、および英・米・日等6カ国の外国為替市場委員会が公表したデータを用いて、主要通貨、特に米ドルと人民元の国際的な地位を明らかにするのが本報告の課題である。

近年、BISの調査において外国為替市場における人民元の取引額が増加しており、人民元がドルに並ぶ基軸通貨となる可能性を指摘する見解もみられる。本報告では、前回（2022年）に引き続き、今回の調査においても、基軸通貨としてのドルの地位を人民元が脅かすような事態は進行していないことを確認する。また、人民元の取引増加の背景にある「クロスボーダー人民元決済」についても言及する。

本報告の内容は、奥田宏司氏との共著による以下の論文に基づくものである。

田中綾一・奥田宏司「2025年4月の世界の外国為替市場と国際通貨」『駒澤大学経済学論集』第57巻第4号、2026年3月